平成２９年度　学校経営計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1	生徒の進路志望100%実現を目指すために、3 年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する ・学習規律の遵守と家庭学習の確立を組織的に指導する。 ・効果的な学び直しの取り組みを行い、基礎学力の定着を図りながら、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・ICT の活用やアクティブ・ラーニングの充実など、学習指導方法の改善を進め、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。	①	シラバスに学び直しの項目を入れ、授業中に活用を図る。また、学び直しについても適切に評価し、学習意欲を喚起することで基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	学び直しのための教材を作成し、活用した教員の割合が A：100% B：95%　以上 C：90%　以上 D：90%　未満	教職員調査(12 月) 肯定的評価 A(76.2)+B(23.8) =100.0% 達成度：A	７月期と同様 100%を維持している。A 評価の割合が高くなっていることを踏まえると具体的取り組みがより充実して試されていると考えて良い。基礎学力の定着を図ることは必須条件であるが、この項目の達成度判断基準が教職員対象のアンケート調査でよいかどうかは検討が必要と思われる。
		②	書画カメラや iPad などの ICT 機器を活用し、映像や視覚的な効果を取り入れ、学習意欲を喚起し、授業改善を図る。	各教科 教務課	職員が ICT 機器を年間に活用した回数が一人平均で A：70 回　以上 B：60 回　以上 C：50 回　以上 D：50 回　未満 ICT の活用により、学習意欲が高まったと感じている生徒の割合が　A：70%　以上 B：60%　以上 C：50%　以上 D：50%　未満	教職員調査（12 月） 20 名で　1887 回使用 平均 94.4 回 達成度：A 生徒調査（12 月） A(27.1)＋B(42.6) ＝69.8%　達成度：B	ICT 機器の活用は授業の中で自然に使用されるようになりつつある。また、iPad の数も増加し効果的な使用方法についての校内研修会も行われた。但し、効果的な利用方法と実際の効果については生徒のアンケート結果からはまだまだ工夫の余地があると思われる。今後とも研修や研鑽を積む必要がある。
		③	学習規律の遵守に努め、主体的に授業に取り組む態度の定着を図る。	各教科 教務課	学習規律を守っている生徒の割合が　A：90%　以上 B：85%　以上 C：80%　以上 D：80%　未満	教職員調査（12 月） A(76.2)+B(23.8) ＝100.0%　達成度：A 生徒調査（12 月） A(51.0)＋B(42.6)＝93.6% 達成度：A	教師が規律を守らせていることは自覚を持って継続されている。生徒も学習規律を守って授業に参加している意識が高まってきている。但し、習慣として確立されているかどうかは分からず、気持ちを緩めるとすぐに割合が下がる可能性もあるので、今後とも各授業で意識を持って臨んでいきたい。
		④	AL の充実を図り、生徒の学ぶ意欲を喚起するとともに、分かる授業づくりを実践し、基礎学力の定着を図る。	各教科 教務課	アクティブ・ラーニング型の授業を取り入れている教員の割合が A：95%　以上 B：85%　以上 C：75%　以上 D：75%　未満	教職員調査（12 月） A(71.4)＋B(28.6) ＝100.0% 達成度：A	アクティブ・ラーニングを取り入れた授業は、別調査では、１２月末で一人当たり６３回行っている。生徒の授業評価でもアクティブ・ラーニングによる思考力や表現力の高まりを感じている生徒は７月と変わらず 70%程度いる。今後とも研修や研鑽を重ねて生徒の学力を伸ばしていく必要がある。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1	生徒の進路志望100%実現を目指すために、3年間を見通した学力向上とキャリア教育の推進を実践する。 ・学習規律の遵守と家庭学習の確立を組織的に指導する。 ・効果的な学び直しの取り組みを行い、基礎学力の定着を図りながら、生徒の学ぶ意欲を喚起する。 ・ICTの活用やアクティブ・ラーニングの充実など、学習指導方法の改善を進め、生徒の思考力・判断力・表現力の育成を図る。	⑤	全校で取り組んでいる家庭学習教材の点検や授業で使用する課題プリント、週末課題等を生徒に提供し、計画的に学習に取り組ませる。	各教科 教務課 各学年	家庭学習時間が平日60分以上、休日120分以上の生徒の割合が A：70%　以上 B：60%　以上 C：50%　以上 D：50%　未満	生徒調査（12月） 平日60分以上 H29　37.5% H28　55.5% 休日120分以上 H29　16.1% H28　28.3% 平日　達成度：D 休日　達成度：D	学年によるバラつきが見られる。第1学年は比較的学習時間が長いのでこの姿勢を次年度以降も維持できるように課題を工夫したい。第2学年は次年度最終学年としての自覚を持たせ、進路希望達成のためにも継続した学習習慣を持たせたい。
		⑥	上級学校理解・職業理解などを通じて、生徒の進路意識を向上させ、早期に進路目標を設定することができるよう指導し、目標とする進路実現のために学習に主体的に取り組むよう働きかける。	進路指導課 各学年	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っているとする生徒の割合が A：85%　以上 B：75%　以上 C：65%　以上 D：65%　未満	生徒調査 （12月実施） A(52.9)+B(38.9) =91.8% 達成度：A	前年度同時期は76.6%であり、15.2上昇。また、今年度7月は85.3%であり、6.5上昇である。本年度のキャリア学習は、各学年において、特に次の3点に留意して実施した。①生徒の資質的伸張に配慮した3年計画を立てる。②進路学習と進路行事とのバランスに配慮する。③精選された適切な質(内容)と量(日数・時間等)にする。学習意欲と進路意識は進路実現を支える両輪なので、保護者との連絡も密にして、継続的に効果的指導をしていく必要がある。
		⑦	ホーム担任が、卒業後の進路に対する個々の生徒の思いや情報が把握できる面談シートを活用し、個人面談を適時適切に行うよう努め、進路意識の向上と進路実現を目指す。	進路指導課 各学年	個人面談が進路意識の深まりやキャリア学習への取組に効果があったとする生徒の割合 A：80%　以上 B：70%　以上 C：60%　以上 D：60%　未満	生徒調査(12月実施) A(47.7)+B(39.4)=87.1% 達成度：A	前年度同時期は73.6%であり、13.5上昇。また、今年度7月は82.8%であり、4.3上昇である。各担任は面談において、定期試験の成績、出欠や部活動の状況など生徒の学校生活全般を捉え、生徒の日常的活動とキャリア学習を結びつけ、各自が進路選択と進路実現への意欲を持ち続けるよう指導している。進路・学年一体となって情報を共有し、生徒との信頼関係を構築し、適時の声掛け・指導がなされるよう、連携への不断の努力が必要である。
		⑧	進路ガイダンス、模擬試験、補習、小論文、面接指導などの系統的・段階的な取組を実施し、生徒ひとりひとりの進路実現を目指す。	進路指導課 各学年	生徒の進路実現率が A：100% B：97%以上 C：95%以上 D：95%未満	93.5% 達成度：D	現在の3年生の進路決定人数について 進学：39名、就職：22名、その他：1名（3月31日現在） 次年度に向けて、志望達成のために、①目標の早期設定。②切磋琢磨し相乗効果をあげるための学習グループの形成。③「書き方指導（履歴書・願書・作文）」と「応接指導（面接・挨拶等）」について、教員間で一層の情報共有を図り、生徒一人一人の指導を積み上げる。

学校関係者評価委員会の評価	・先輩と語る会のような機会を通して、将来に向けての明確な目標を持たせて欲しい。それが学習に対する意識を変えることに繋げてほしい。 ・授業におけるタブレット端末の活用をさらに推進して欲しい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・生徒の進路意識を高めるための社会人講話や企業見学・学校見学、先輩と語る会等を通して社会人としての心構えの指導を十分に行って行きたい。 ・タブレットの活用については、校内研修を通して教員全員の実践力を高めていきたい。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2	自主自律の精神を持った社会人としての資質・能力を身に付けさせるために、基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚に努めるとともに、挨拶の励行などのマナーやコミュニケーション能力を養う取り組みを実践する。	①	登下校指導を行い、教師が積極的に挨拶を交わし、全校挙げて生徒によるあいさつ運動の充実を図るとともに、身だしなみ（端正な制服の着こなしと頭髪）を守ることによって、社会人の一員としての自覚を促す。	生徒指導課 各学年	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が A：90％　以上 B：85％　以上 C：80％　以上 D：75％　未満	生徒調査（12月） 挨拶 A(31.3)＋B(52.4)＝83.7％ 達成度：B	12月期は83.7％で、7月期との比較で2ポイントの減少。昨年同時期の調査との比較では3.7ポイント上昇。進路指導につながるよう、自然に、気持ちの良い挨拶ができるよう指導していきたい。頭髪服装検査で不合格となる生徒も4月当初と比べてかなり減少してきており、身だしなみを整える意識は高まっている。
		②	全教職員が協働して、遅刻ゼロ運動を進める。 ・各学年の1日の平均遅刻人数を毎月集計する。 ・遅刻の多い生徒には、個別面談を行い、生活の見直しや改善につなげる。	生徒指導課 各学年	1日の平均遅刻者数指標 1学年　2人以内、2学年　2人以内、3学年　1人以内 1日の平均遅刻者数の達成率が A：各学年とも目標を達成した B：2つの学年が達成した C：1つの学年が達成した D：全学年が達成できなかった	学年毎の1日あたり遅刻者数 1年生　1.08人 2年生　1.61人 3年生　1.70人 達成度：B	7月期との比較で、2年生の遅刻者数が1日あたり0.45人減少し、達成度はCからBへ上昇した。1年生は0.35人、3年生は0.45人それぞれ増加した。3年生については、進路決定後の気の緩みが原因とみられる遅刻が増加した。学年と連携して、進路実現に向けた遅刻指導、進路決定後の遅刻指導を引き続き行っていきたい。
		③	入学式後面談や面談週間(6･10月)を通じたきめ細かな面談と、スクールカウンセラー等との連携を通して、生徒の学校生活等の支援体制の充実を図る。	厚生課 各学年	生徒の悩みに先生が相談に応じてくれていると答えた生徒の割合が　A：85％　以上 B：75％　以上 C：65％　以上 D：65％　未満	生徒調査（12月） 学校生活の悩みへの肯定的割合 A(47.7)+B(39.4)=87.1％ 達成度　：A	昨年度同期と比較して肯定的な意見が11.7%上昇し、達成度はAに上がった。この取り組みを生徒が安心して学校生活を送るために資するものとして捉え、今後もスクールカウンセラーとの連携をより一層密にし、生徒のみならず保護者との面談も充実させていきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・生徒の悩みへの対応が10ポイント以上と大きく向上していることが評価できる。悩みの解消は学習や部活動を頑張るためには必要なことなので、引き続ききめ細やかな指導をお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・面談週間をはじめ全職員で生徒の悩み等に対応しており、教職員の連携をより一層強化し、継続的に生徒のサポートに努めていきたい。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3	宝達高生としての愛校心や自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨くために、部活動や特別活動、地域貢献活動の充実と活性化を図る。	①	生徒会執行部や各種委員会、学級において、生徒一人ひとりが自らの役割を理解し、積極的に活動できるよう指導する。	生徒会課 各学年	所属する係の仕事を理解し、活動することができたという生徒の割合が、A：85%　以上 B：75%　以上 C：65%　以上 D：65%　未満	生徒調査 （12月実施） A(52.9)+B(36.1) =89.0％ 達成度：A	係分担や委員会活動においては、89.0%で7月比+0.5ポイントで微増ではあるが、生徒が役割を理解し活動できたと回答している。年度当初や学期初めの打ち合わせをしっかり行い、組織的に取り組むことができた。各委員会顧問や、ホーム担任が活動について明確な指示を与えることができ、充実した活動ができたと思われる。 次年度も、年度当初や学期初めの打ち合わせを充分に行い、生徒が達成感を得られることができるようにしていきたい。
		②	生徒会と連携し、平常清掃の大切さを呼びかけ、積極的な参加を促す。また、環境整備委員等の働きかけによる美化コンクールを通じ、環境美化への自主性を高める。	生徒会課 厚生課	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90%　以上 B：85%　以上 C：80%　以上 D：80%　未満	生徒調査 （12月実施） A(52.7)+B(36.1) =89.0% 達成度：B	昨年度同期と比較して肯定的な意見が6.4%上昇し、達成度はBに上がった。大掃除や学校祭直前の環境整備委員会での分担確認や当日の声掛けが効を奏したと考えられ、今後も継続したい。美化コンクールでは、より公平な審査を期するよう、環境整備委員の意識づけにさらに取り組みたい。生徒に対しては、清掃に頑張って取り組んでいる姿を本校WEBページで紹介するなどして、さらなる意欲の向上に結び付けたい。
		③	心と身体の健康維持のために年間7回実施する「生活自己チェックカード」の結果から、生徒ひとりひとりの生活状況やいじめ等の悩みを的確に把握し生徒の指導に活かす。	厚生課 生徒指導課	生活自己チェックカードの結果が面談や生徒指導に十分に役立ったと答えた教員の割合が A：100% B：95%　以上 C：90%　以上 D：90%　未満	教員調査 （12月実施） A(61.9)+B(38.1) =100% 達成度：A	本年度初めて具体的取り組みとして設定した結果、肯定的意見が100%となり、有用性が確認できた。引き続き調査、集計、フィードバックを実施し、生徒個々の指導の一助としたい。「いじめ」の項目については、生徒指導課と情報を共有し、生徒の指導において連携したい。
		④	部活動の組織的運営を図り、積極的に部活動に加入し、年間を通して継続的に取り組むことができるよう指導する。	生徒会課 各学年	部活動に加入し年間を通して継続的に取り組んでいる生徒の割合が　A：90%　以上 B：80%　以上 C：70%　以上 D：70%　未満	生徒調査 （12月実施） A(61.0)+B(24.0) =85.0％ 達成度：B	部活動の所属についての指導で、4月当初の加入率は100%であったが、学期が進むにつれて部活動への参加はやや減少し、活動状況が良好であると判断している生徒は85.0%程度となった。 活動日にはきちんと出席する指導を継続していくと共に、生徒にとって魅力的な部活動内容となるよう指導方法を工夫していきたい。

3	宝達高生としての愛校心や自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨くために、部活動や特別活動、地域貢献活動の充実と活性化を図る	⑤	生徒会や部単位での活動を主として、宝達・敷浪・免田駅周辺の清掃活動をはじめ、地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。	生徒会課 各学年	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：80%　以上 B：70%　以上 C：60%　以上 D：60%　未満	生徒調査 (12月実施) A(43.2)+B(38.1) =81.3％ 達成度：A	積極的に参加したと肯定的に回答をした生徒の割合が 81.3%で 7月調査比 71.3%の+10.0%であった。昨年比と比較しても参加していると意識している生徒は増加傾向にある。 ボランティア活動に至るまでの、道徳教育も含め、次年度はさらに積極的に取り組む生徒の割合を増やせるよう生徒会からの発信の工夫も検討していきたい。

学校関係者評価委員会の評価	・生活自己チェックカードは基本的な生活習慣の確立に向けた指導に大変有効だと思う。十分に活用して欲しい
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・生活自己チェックカードの結果は会議等で全職員で共有するだけではなく、面談等を通して生徒の指導に十分に活用していきたい。

重点目標		具体的取組		主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4	学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信するとともに、近隣の小・中学校との連携を密にし、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	①	学校からの配付物を保護者に渡す指導を今後も徹底すると同時に、メール配信システムを有効に活用することで、配付物を含めた学校情報を確実に保護者に届ける。	総務課 各学年	配付物を保護者に届けた生徒の割合と、学校情報を知ることができた保護者の割合は、それぞれが A：85%　以上 B：80%　以上 C：75%　以上 D：75%　未満	生徒調査 (12月実施) A(42.6)+B(36.8) =　79.4% 達成度 C 保護者調査 (12月実施) A(42.2)+B(49.0) =　91.2% 達成度 A	配付物を保護者に届けた生徒の割合が、昨年度 12 月 74.8%と比較した場合わずかに改善している面もあるが、84.1%→79.4%と下降した。 S.T.時に渡した配付物について終礼時に保護者に手渡すよう注意喚起する、終礼時に配付するなどの基本的な連絡を徹底する。また保護者のメール登録は70%に止まっており、保護者全員に登録していただき、メール配信で配付物等について周知していただく必要がある。 保護者については、「学校だより」等の発行物だけではなく、本校のホームページに掲載した様々な情報を閲覧していただいたことにより十分に学校に関する情報を周知することができた。
		②	ＨＰの更新を通して、生徒、保護者および地域住民へ速やかに情報を発信するとともに、ＨＰの閲覧を推進し、本校の良さを理解してもらう。	総務課 各学年	ＨＰの閲覧回数が月平均で A：500回以上 B：400回以上 C：300回以上 D：300回未満	ＨＰ閲覧回数 (4月～1月) 月平均：約3,835 回 達成度　A	本校のホームページについて宝達志水町内に配付する広報や保護者・生徒へのメールに記載することにより、ＨＰ の閲覧を推進した。また、各課・学年・部活動で、それぞれが関連する行事・大会・活動状況など様々な情報をホームページで掲載し、多くの生徒、保護者および地域住民に閲覧していただいた。来年度は、HP の閲覧回数を一日平均で計算し、その動向を確認する。

学校関係者評価委員会の評価	・学校のホームページがどのような目的で見られているかを分析することで、内容の充実が図られ、有効なＰＲに繋がると思う
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	・日々の活動状況を随時ホームページにアップし、最新情報を記載することで閲覧回数は飛躍的に増加しており、生徒、保護者のみならず地域の方のニーズも把握しながらさらに記載内容の充実を図りたい。